

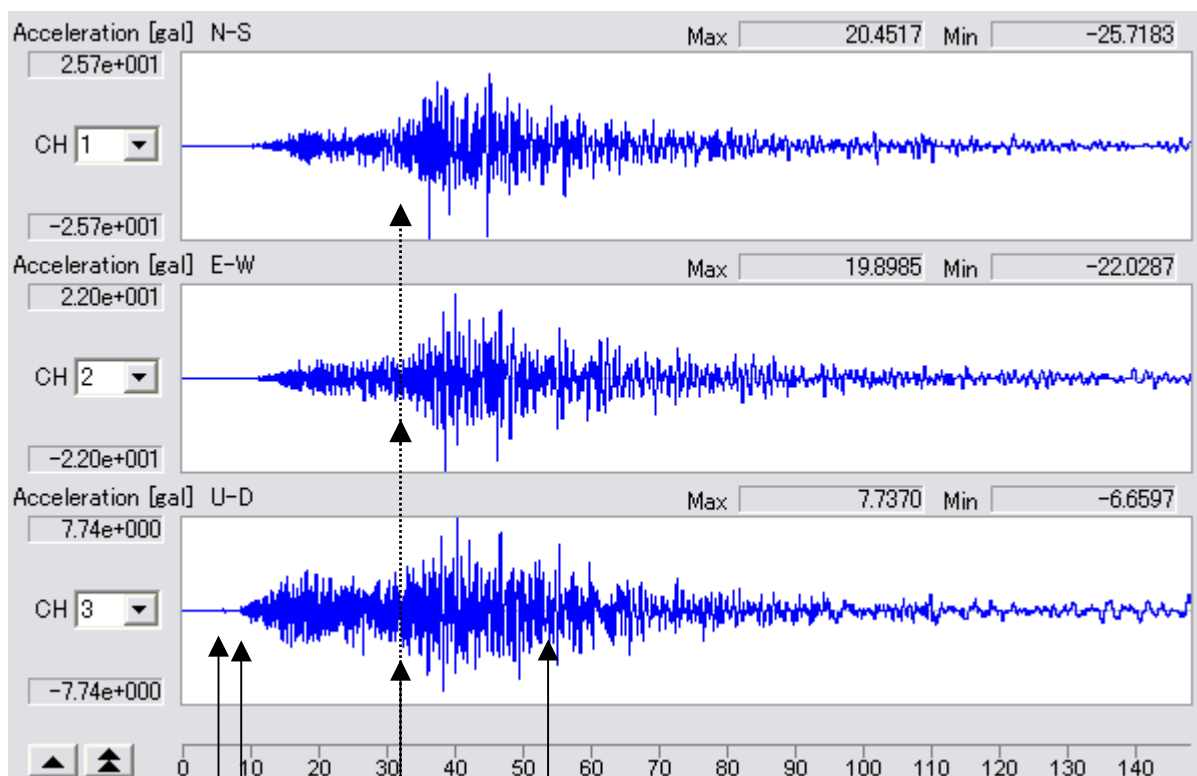
以下は、ある会員からのレポートです。

平成 20 年 5 月 12 日

2008 年 5 月 8 日 01 時 45 分頃の茨城県沖の地震(M 7.0)におけるレポート

埼玉県朝霞市に設置した緊急地震速報受信端末で受信した茨城県沖の地震における動作について報告します。

受信点から約 10 km 離れた防災科学技術研究所 K-NET 川口（埼玉県川口市）における加速度波形との比較を下に示します。



基準時刻 04:45:38

S 波到達
01:46:10 頃

約 27 秒
P 波到達
01:45:47 頃

受信端末がアラーム発報
(音声ガイダンス)
01:45:43 頃 (※)

震度 3 程度の揺れを感じた

一般向け緊急地震速報発表
01:46:32 頃

(※) 受信端末のアラーム発報(音声ガイダンス)時刻は配信サーバにおける記録ログによります。

受信点である朝霞市から K-NET 川口観測点までの距離は約 10 km であり、朝霞市では P 波・S 波到達は川口観測点より 1～2 秒遅れていると考えられます。

受信端末の音声ガイダンス（以下「音声ガイダンス」という。）の内容は次のとおりでした。

「チャリンチャリン（NHK 報知音）」まもなく地震がきます。

「チャリンチャリン（NHK 報知音）」すぐに地震がきます。

音声ガイダンス実施時には既に揺れは体感していました。おそらく P 波による揺れと思われます。音声ガイダンスが終了後しばらくして大きな揺れになりました。この受信装置は震度 2 以上を予測すると音声ガイダンスを出力するよう設定されています。

この地震の前の地震(午前 1 時 02 分頃、震源域はほぼ同じ)における音声ガイダンスの報知音「チャリンチャリン（NHK 報知音）」で目が覚めてかなりの恐怖を感じました。訓練やテスト以外でこの機器の音声ガイダンスを聞いたのはこれが初めてでした。真っ暗な部屋で赤いランプとかなり大音量の音声は怖く感じました。受信端末から耳元までの距離は 1 m 以下でした。しかし、これくらいの大音量でないと就寝中の報知としては、目を醒ますことができないと思われました。なお、この際に耳にした音声ガイダンスの内容は全く覚えていません。

2 回目の音声ガイダンス(午前 1 時 45 分頃)では 1 回目(午前 1 時 02 分頃の地震)の音声ガイダンスで起きた後に再び寝付いた直後だったので、音声ガイダンスの内容を落ち着いて聞くことができました。大きな揺れがおさまりかけたところでテレビをつけてチャンネルを NHK に合わせたところ、直後に一般向け緊急地震速報が発表されたところでした。

強震記録引用：独立行政法人防災科学技術研究所 強震ネットワーク K-NET

<http://www.k-net.bosai.go.jp/k-net/>